

現場でかがやく社員

近年、各企業が人材不足に直面している。産業廃棄物処理業界も例外ではなく、求人募集希望人数を確保できないことは多い。そのような状況の中でも新規学卒者や女性社員が最前線で働いている企業は存在する。IWDでは女性社員が営業

職として奮闘している。タカヤマでは新規学卒者として入社した社員が営業職として顧客の課題解決を図っている。今回は「現場でかがやく社員」にスポットを当て、入社後の経緯や業界に対する思いを聞いてみた。

「お客さま」との信頼関係が重要

産業廃棄物の収集運搬・中間処理・リサイクル・最終処分事業等を手掛けるIWDでは、顧客との窓口となる営業職で女性の社員が活躍している。変化の激しい業界の中で日々奮闘している原菜穂子さんと谷澤由貴子さんに業界の魅力や今後の目標などについて率直な意見を聞いた。

—— 業界に入ったきっかけと現在の業務について教えてください。

原 最初は営業アシスタントとして契約書の作成や理業界のことをよく知らずに入社しましたが、業務を通じて業界を知ることができたと感じている部分があります。

入社してからは1年3カ月が経ちます。当初は営業アシスタントとして契約書の作成やお客さまからの電話対応などを行っていましたが、今期から営業としてお客さまへの訪問などを行っていき、案件を伺っています。谷澤 私は異業種から転職してきました。もともと建設現場等に行くと



原さん(左)と谷澤さん(右)

新たなことを創造できる面白さ

IWD

選別精度などについて驚かされています。入社してからは半年が経ちます。当初は上司と同行してお客さまへの訪問を行っていましたが、現在は既存のお客さまを中心に1人で訪問しています。

—— 業界・会社に対する魅力を感じますか。

原・谷澤 この業界は社会経済システムに不可欠なインフラであり、地域と共生しながら発展していくことが重要



グループ会社のIWDアグリ

最終処分場を有していることは当社グループの大きな特色です。仕事をを行う上での難しさなどについて教えてください。

原 仕事をを行う上での難しさとしては、産業廃棄物の知識がまだ乏しいことが挙げられます。産業廃棄物に係る各法律や業界・専門用語について勉強しないといけない部分は多いです。

—— 分らないことは上司に確認し、また外部で行われている産業廃棄物関連の研修など積極的に参加することで知識を得るようになっています。

原 今実際に行っていることですが、お客さまにお渡しする名刺の裏にメッセージを記述することで「困った時、ぜひお声がけください」という認識を持ってもらえようようにしています。

—— また、この業界において女性が活躍するための土壌はまだ乏しいと感じます。今後、すでに業界で働いている女性や、これからの若い女性がより活躍できるよう少しでも貢献したいと考えています。

谷澤 業界全体が発展するために今よりさらに女性が活躍し、さまざまな視点から議論の幅が広がればと考えています。